

# BIM6社がセミナー開催

## 最新機能の開発状況を紹介

ソフトウェアメーカー6社は11日、大阪市のグランキューブ大阪で、BIM(Building Information Modeling)の普及を目的に「BIMベ

ンダー6社共催セミナー」を開催した。BIMの核となるソフトウェア間のデータ連携など、最新機能の開発状況を紹介した。26日に同様のセミナーを名古屋市のMIDLAND HALLで開催する予定。

初めに、司会の伊藤文彦・バル・システム大阪オフィス所長が「BIMシステムを導入する企業が、各社で業務効率化が進んでいるもの、BIMとしての活用は進んでいないとの声が多い。そのため、ベンダー自らがソフトの紹介と

建築界におけるデータの共有化および相互運用を目的としてIFCの策定や標準化活動を行う国際団体」として、組織体制やSIBI-Bridgeについて説明した。

セミナーでは、実際に1つの建物をモデルにして「企画設計」「一貫構造計算」「構造図作図」「意匠設計」「設備設計」「見積算」のそれぞれのソフトウェアメーカーが、機能や相互のデータの受け渡し方法を解説した。

各分野を担当したメーカー

とセミナータイト

ルは次の通り。

▽企画設計「コミユニケーションシステム(本社・東京都新宿区、比嘉昇秀社長)」「土地情報有効活用と企画BIM[TTP-PLANNER]」

▽一貫構造計算「ユニオンシステム(本社・大阪府大阪市、吉田博史社長)」「よりBIM化にむけた構造設計

Build SST」▽構造図作図「ソフトウェアセンター(本社・東京都千代田区、阿部潔社長)」「SIRCADは構造BIM連携を強力にサポート」▽意匠設計「グラフィックソフトジャパン(本社・東京都港区、コバチ・ベンツェ社長)」「OPEN BIMワークフロー

[ARCHICAD 21]」▽設備設計「NKYシステムズ(本社・東京都中央区、渡辺洋一郎社長)」「設備BIM」▽見積算「日積サーベイバル・システム(本社・大阪府中央区、生島宣幸社長)」「実践！BIM積算

### (一社)建築鉄骨構造技術支援協会

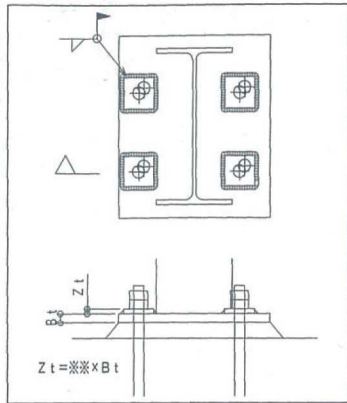
## 鉄骨技術フォーラム

2017年10月13日  
IN 東京電機大学 東京千住キャンパス  
質疑と回答

連載⑤

### アンカーボルト孔部の補強

Q アンカーボルトの施工精度が悪く、やむを得ずベースプレートの孔を長孔



A 図示のように、アンカーボルト孔がずれてアンカーボルトが収まらない場合、ずれ量があまり大きくない場合には、ボルト孔をあけ直してその部分に補強板を隅肉溶接でつ

ける補強は、やむを得ない対応と考

えられます。この場合の補強板の板厚、サイズについては、隅肉溶接の耐力等を検討して、補強板の板厚、寸法、隅肉溶接のサイズ等を決定することが基本と

確認して決定することになります。このようなケースについては、本来あつてはならないこととなつてい

ます。また、このような状況がいつ判明したかによつて部材が工場にある場合には、ベースプレートに拡大孔をあけて特殊な親子ファイラーを用いることで対応できる場合もあると考

えます。 田中淳夫理事長(宇都宮大学名誉教授) 回答者「SASSST」



セミナーのもよう

「HELLOS」